

「熱意を持って主体的に」

キリンビール株式会社

名古屋工場 醸造エネルギー担当

吉田 光輝

私は、2017年3月に工学研究科生命先端工学専攻博士前期課程を修了しました。その後、キリン株式会社に入社し、キリンビール名古屋工場で醸造エネルギー担当として、ビールの造り込みや現場での日々の工程管理に携わっています。本稿では、入社から約1年が経過し、フレッシュパーソンとして学んだこと・感じたこと、そして最後に今後の抱負について述べさせていただきます。

はじめに、大学時代の研究とキリンへ入社した経緯をお話しします。大学時代は村中研究室で3年間、植物に関する遺伝子工学・組織培養分野の研究をしていました。日々論文や書籍から勉強して実験を重ね、行き詰まった時には村中教授・関連教授をはじめ、先輩方とディスカッションしてアドバイスをいただき、日々研究を続けてきました。キリンへ入社した理由は、小学生時代から漠然と希望していた「ビール会社で働きたい」という思い、就職活動中にクラフトビールやビール業界全体の情報収集をしていくにつれて徐々に大きくなってきた「若者のビール離れを食い止めたい」という思い、そして「研究で学んだ基礎知識や研究を進める上で培った姿勢を活かしたい」という思いがあったからです。

次に、入社してから約1年で学んだこと・感じたことについてお話しします。工場研修やOJTなどで様々なことを学んだ後、工場で実務を始めたのはごく最近ですが、これまでに学んだことについて、大きく2点お話しします。

1点目として、ものづくりはチームで成り立ち、それぞれの協力が不可欠であるということを学び、コミュニケーションの重要性を感じました。大学時代は研究室の先生方や先輩・後輩と協力してやり遂げることはあったものの、大部分は一人で実験をして、時間の使い方も自分次第で良いところがありました。しかしながら、工場のものづくりでは一連のバリューチェーンがあり、人から人へ役割が繋がれていて、多くの人が密に関わりあうことで一人の力だけでなく、みんなの力で成果を出していくものです。一人で完結する業務はほぼ皆無で、時間に関しても納期がタイトに決まっていたり、関係する方々の時間の制約も考慮することが必要になってきたりします。また新人で分からないことが多いため、特に助けてもらう、協力してもらうことが非常に多く、そこで大事になってくるのが人間関係であると学びました。

三交替研修中では現場の方々とただ積極的にコミュニケーションをとるのではなく、特徴、得意分野や業務範囲をしっかりと把握できるようにコミュニケーションを工夫したり、コミュニケーションを円滑にするために簡潔でわかりやすく伝えることを意識して取り組んでいました。そのおかげかは分かりませんが、最近では徐々に現場の皆様から逆に何か依頼をされることも増えてきて、信頼関係が構築できつつあることを実感しています。

2点目として、「学ぶことの楽しさ」を改めて日々感じています。工場勤務ということもあり、大学で学んだ知識をほとんど活かすことができないため、最初は理解できないことが大半で会議ではただその場にいるだけになっていました。しかしながら、研修や業務で日々知識を増やしていくことで、徐々に理解できる話題が増えてきて、さらには疑問や自分の考えを発信できるようになってきました。学ぶことで自分のやるべきこと・やりたいことが少しずつ見えてくると感じています。まだまだ自分の業務に関する範囲でしか学ぶ余裕がありませんが、今後はもっと色々なことに興味を持って、視野を広げていきたいと思います。

最後に今後の抱負についてお話しします。入社して約1年が経過した今、目の前の業務で精一杯という状況ですが、将来的には目の前のことだけでなくバリューチェーン全体・組織全体・社会の情勢など物事をもっと俯瞰的に見れるようになり、やるべきこと・やりたいことをしっかりと実現できるようになるために「主体的」に行動していきたいと思います。また大きな目標に向かっては「熱意」を持って最後まで諦めずに取り組む姿勢を持ち続けたいと思います。そのためにまずはしっかり基礎・基本を身につけ、土台をしっかりと構築していくことが今の自分には必要と思っているので、今まで大学で培ってきた物事を筋道立てて考える力や何事も諦めず最後までやり遂げる根気強さを自分の武器と捉えてこれからも頑張りたいと思います。

最後になりましたが、このような寄稿の機会を下さいました恩師の福崎英一郎先生、村中俊哉先生に御礼申し上げます。

(応生 平成27年卒 生命先端 平成29年修士)